

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

胴串 -どぐし-

Summer 2017

Vol.18

特集

巨大人形劇「さんしろうお」 完成版上演へ

Dogushi Vol.18 2017年8月発行 発行：「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL:0505-3598-33 FAX:0505-3598-44 E-mail: itida-puppet@mis.jan's.or.jp

「人形劇のまち飯田」 運営協議会からのお知らせ

新とけい塔の建設に ご協力ください

市民や観光客に親しまれていた飯田市民館横の人形時計塔「ハミングバル」。建設から30年近くたち、老朽化によりからくりが動かなくなっています。来年はいい人形劇フェスタ20周年、前身の人形劇カーニバル飯田から40周年を記念して世界人形劇フェスティバルが開催されることなどから、新たな発想で人形劇のまち飯田を象徴するといけい塔として作り替えることになりました。

今年5月から1,500万円を目標金額として募金活動に取り組んでいます。一人でも多くの皆さまに関わっていただけるよう市民会議の趣旨にご賛同いただき、ご寄附を賜りたくお願い申し上げます。

- 主 催：「人形劇のまち飯田」新モニュメント建設推進市民会議
- 募集期間：平成30年3月31日まで
- 問 合 せ：飯田文化会館 ☎0265-23-3552

Dogushi

並木 さんぽ

特集で取り上げた巨大人形劇「さんしろうお」。今夏、ようやく完成版の上演です。長期間のプロジェクトに参加してくれたメンバーの皆さん、人形制作を手伝ってくださった方、作業場へ見学に来てくださった方、稽古を見守ってくださった方、SNSで話題にしてくださいました。本当に多くの方に支えられてここまでできました。8月3日・4日のステージは演じる人、支える人、見る人、みんなで大いに楽しみましょう!

次号は10月発行予定です。(帆)

表紙イラスト：井原千代子



View of IIDA

毎年7月の第一日曜日に開催される「森のかみしばい劇場」。会場のかざこし子どもの森公園なかまの館には小さなお友だちが大勢集まり、地元の読み聞かせグループによる紙芝居やパネルシアターを楽しみました。

わかる!! 人形劇 用語

『AVIANAMA (アヴィアマ)』
Association internationale des villes amies de la marionnette (人形劇の友好都市国際協会)の略。人形劇を支援している世界の都市が集い、人形劇に関する連帯とネットワークを構築することを目的とする国際協会。フランスのシャルヴィルメジエール市の呼びかけで2011年9月に発足し、同市と飯田市以外に、フルアール市(フランス)、セゴビア市(スペイン)、トロイサ市(スペイン)、ビアウイス

ツク市(ポーランド)、ゲント市(ベルギー)、トゥルネー市(ベルギー)、ピルゼン市(チェコ)、モントリオール市(カナダ)、セグ州(マリ)、エツシユシユルシユール市(ルクセンブルク)の計9カ国11市区1州が加入している。発足以来、ほぼ毎年2014年のみ開催されず、総会をいづれかの都市で開催。2018年の総会は、フェスタ20周年、世界人形劇フェスティバル開催にあわせ飯田市で開かれる。これは、ヨーロッパ圏以外では初めてのこと。
この国際協会は、人形劇に関するプロジェクト、都市間の情報交換、交流等、人形劇に係る様々な活動を行っている。現在、会長は、前シヤ



ルヴィルメジエール市長で、現ラオスのフランス大使クロード・インス・ルドゥー氏。飯田市長は同協会の会計担当役員を担っている。(人形芝居燕屋くすのき燕)

巨大人形劇「さんしょううお」の歴史



すべてはここから。2014-15年に実施した人形・舞台美術デザインを考える「フィギュアシアター・デザインコース」受講者・後藤康介さんが企画を提案(2015年1月)



1年後の完成版上演に向けたPRのためのデモンストレーション。いいた人形劇フェスタ2016にて10公演(2016年8月)



さらにメンバーを募るため説明会を行う。昨夏完成させた人形・エビを背負い、操演を体験する説明会参加者。地元や東京から新たに10人が加わった(2017年3月)



飯田市松尾の倉庫を借りて作業場に。新たなキャラクター制作に取り組み(2017年4月)



沢 則行監督の飯田入りにあわせ、これまでつくってきた人形を動かしながらの稽古開始(2017年6月)



本番と同じ広さの舞台を想定し、屋外で稽古(2017年7月)



「おもしろそうだね。これ、やってみようよ」。チエコを拠点に世界で活躍する人形劇アーティスト・沢則行さんのひとことで、南信州・飯田を舞台にした壮大なプロジェクト「巨大人形劇さんしょううお」が動き出したのが2015年秋。昨年のいいた人形劇フェスタでは10分ほどのデモンストレーションを行い、千人超の観客を動員しました。

昨夏の上演直後、完成版上演に向けてストーリーを再構成し、新たに登場するキャラクターの人形・舞台道具・衣装の制作、楽曲制作など手が付けなければならぬことが山積み。世界各国を移動する沢監督と密にやりとりをしながら、冬から春にかけて日常的に人形づくりがすすめられました。

いいた人形劇センターが2015年秋から2年計画ですすめるプロジェクト。沢則行監督巨大人形劇「さんしょううお」。今夏、いいた人形劇フェスタ2017のステージで完成版を上演します。チエコを拠点に世界で活躍する人形劇アーティスト・沢則行さんと、飯田下伊那の市民が創りあげた、これまでに見たことのないスケールの作品に期待が高まります。



監督を務める沢則行さん

わくわく イベントスケジュール

いいた人形劇フェスタ 2017

- 8月1日(火)～6日(日) 特集 関東の人形劇 [人形劇公演]
- 沢則行監督 巨大人形劇「さんしょううお」
- 8月3日(木) 19:30/21:15 4日(金) 10:30/13:00
- 会場／飯田文化会館ホール
- 人形劇ユースクラブ「なかよし」
- 8月6日(日) 11:00/13:00
- 会場／川本喜八郎人形美術館 3F ホワイエ [企画展]
- すてきな世界の人形劇ポスター展③
- 8月29日(火)まで 会場／川本喜八郎人形美術館2F交流ゾーン
- 影絵在台湾「高雄市皮影戲館」館蔵品日本交流展
- 8月1日(火)～9月5日(火)
- 会場／川本喜八郎人形美術館3Fスタジオ

わたちゃんのダンボールししまいワークショップ

- 頭づくり 9月10日(日)・24日(日) 10:30
- 舞の練習 10月 1日(日)・8日(日) 10:30
- 会場／川本喜八郎人形美術館 エントランス前
- 料金／頭1体 400円
- ダンボールで獅子頭をつくり、舞を練習。10月15日開催の獅子舞フェスティバル「創作獅子舞コンクール」に出場

懐かしのテレビ人形展

- 9月23日(祝土)～10月22日(日)
- 会場／川本喜八郎人形美術館3Fスタジオ

人形劇定期公演 9月3日(日) 10:30開演／飯田人形劇場

5月よりお休みしていましたが9月より再開します。地元市民劇団の連続公演をお楽しみに。平成29年4月の定期公演からポイントカードを始めました。観劇1公演につき1ポイントゲット! 3ポイント集めるとプロ劇団公演の優待観劇などプレゼントがあります。

いいた人形劇フェスタ2017 [上演スケジュール]

- 日程／8月3日(木) 19:30-21:15 4日(金) 10:30-13:00
- 会場／飯田文化会館ホール
- ※開場は各公演の20分前。参加証ワッペンで観劇できます

ぼくらの聖地、飯田に行こう!

げきだんはてな
うそまこと

第7回 すべての道は 飯田へ通ず

カーニバル時代からまもなく40回…皆勤ではないが、そのほぼ毎夏、飯田に行っている。各方面の方々の努力には心から敬意を表します。全国にも知られる飯田地域の公民館活動や社会教育などと、そして私達人形劇に携わる者たちとの共同作業がここまで成熟し発酵したのでしょう。

私達にとって飯田はまさに聖地! さて花盛りを象徴するようにオブジェクトシアター、人形演劇、巨大人形劇…はたまた児童演劇やパフォーマンス系の方々、人形やモノを使ったりと人形劇の定義は広がり続けてる。一見百花繚乱に見えるが、かといつて教



科書のような人形劇や芸を見せつけるようなものには辟易する。もちろんそれらを否定しないし作るのは自由だ。

ただもうひとつの太い軸はどこにあるのか…。人形そのものの持つ深刺さ、小気味よさ、命あふれる躍動感、殺しても死なない、空も飛べる、海に入っても息ができる、のようなもの。人形が人間そっくりの動きをしても感心するだけで感動はしない。ああ紙面も尽きてきた。はつきり言うよと今の人形劇はつまらないのばっかし!

あー、おれが作るしかないのか。おあとがよろしいようで…。

次号は、ヨシダ人形劇の吉田貴志さんです



むすび座+はてな=43年→今年64歳に見えるうそまことはまだ0歳の産まれたばかり…。人形劇の底知れぬ海の中でもがき続けている



伊那史学会・秀文社 1969年

(人形劇の図書館館長・瀧見英明)

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から®

『伊那谷を描く3 黒田人形』 絵:熊谷元一 文:日下部新一

伊那谷のさまざまなくらしや年中行事など、熊谷元一が地元の郷土史研究家らとそれぞれ組んで1970年前後に出版した、「伊那谷を描く」全10冊シリーズの一冊。味わいある、丁寧に描かれた絵を豊富に織込み、写真も一部使って小中学生に向けた、わかりやすく興味深く、郷土の香り豊かな、とても優れた黒田人形解説書なのだ。

この著者は二人とも地元小学校の元教員であり、童画家と人形芝居・郷土研究家とそれぞれの専門分野を重ねあわせた、古きだけではない伊那谷の文化が醸成したものだと思う。他のシリーズも含め、ぜひ手元に置いておきたい一冊である。



ナイブ二人形劇場前で始まったパレードのようす

海外レポート チェコ編 マテジンカ フェスティバル

いいだ人形劇センター
事務局長 木田敬貴

チェコのリベツで2年に一度開催されるマテジンカフェスティバルに行ってきました。リベツは首都プラハから北東に約100キロ離れたおよそ10万人の都市です。ここにはナイブ二人形劇場という専門の人形劇場と劇団があります。

フェスティバルは今回で24回目。全5日間の参加団体はチェコ国内14劇団、外国(ベルギー、スロベニア、スロバキア、デンマーク)4劇団でした。人形劇場のなかにあるホール(約200席)とスタジオ(約100席)をメイン会場にして、人形劇16作品、パレードや屋外コンサートなどのパフォーマンス4作品を見してきました。初日のオープニング前にはパレードを開催。主催のナイブ二人形劇場の役者並びにスタッフと地域の子どもたちが仮装して参加していました。

平日は近隣の幼稚園や小学校から観劇に来ていました。終演後に舞台上がつて人形に触れる機会があった時、子どもたちは積極的に舞台上がって、人

形を動かして遊んでいました。その人形の扱いに慣れていたことに驚きました。

作品はヨーロッパの昔話や絵本を題材にしたものが多く、LEDライトを手持ちで使用して照明効果による可能性を探っていたり、日本では見られない色彩感覚豊かな舞台セットがとても印象的でした。『みにくいアヒルの子』では、泳ぐシーンをアヒルの胴体を半分分割して磁石で池を挟むなど面白い工夫がありました。来年間催される世界フェスティバルに推薦したい作品のひとつです。まだまだご紹介したいことはたくさんありますが、スペースに限りがありますのでまたの機会にしたいと思います。



終演後、舞台上がり人形を動かして遊ぶ子どもたち



面白い工夫が見られた『みにくいアヒルの子』

ナイブ二人形劇場が飯田へやってくる!

海外の優れた舞台作品を鑑賞する「せかいの劇場vol.6」は、チェコのナイブ二人形劇場を招聘し、2018年2月に飯田人形劇場で開催します。ファミリーでご覧いただける作品をただいま調整中です。詳細はもうしばらくお待ちください。

15分ほどで書き上げた台本を
数人で声に出して読んでみる



シリーズ 人形劇に取り組む 子どもたち⑦

飯田市の小中学校では多くの子どもたちが人形劇活動に取り組んでいます。これは全国的に珍しく“人形劇のまち飯田”ならではの特色です。子どもたちが取り組む人形劇活動の様子を紹介するシリーズの七回目は、飯田文化会館人形劇のまちづくり係が実施する、人形劇担当教諭研修会の様子をレポートします。

「セリフは短くテンポよく。ナレーションは極力なくすか、最小限にとどめる。自分たちが演じやすいものではなく、お客さんが見たいものをつくる。ストーリーをつくるときは『起承転結』『緩急』など定型の利用を」と、講師の人形芝居燕屋くすのき燕さんが創作するときの留意点を指導。早速、学校での今日の出来事や身の回りのことをテーマに15分ほどで台本を書いてみることに。参加者からは「人形づくりと同じくらい台本づくりも課題の一つ。このような研修は役に立つ」と好評でした。

小さなころから年間を通じて人形劇に親しむ機会の多い飯田の子どもたちにとって、人形劇をすることのハードルはあまり高くはないように感じる一方、担当する教諭にとっては高いハードルのような。新学期スタートと同時に始まる人形劇制作にあわせて行われる4月・5月の研修会では、人形制作実習のほかに今年度初めて「台本講習会」が取り入れられました。



見えないものを観る「想像力」を養えるのも人形劇の特徴の一つ。道具を使わず“なわとび”をやってみる

増田音感教室「天使のたまご」
歌う・聞く・読む・読む・カラを養い、音楽の基礎を学ぶ「増田音感教室」。乳幼児から高校生まで幅広い年齢の子どもたちが通います。毎年7月に行う発表会の演出に、と人形劇を始めて十年以上。「人形に助けけてもらって表現の幅を広げられればと始めたのがきっかけ。それがだんだんと規模が大きくな

★楽しい仲間がやってくる



いい人形劇フェスタ2017では8/5(土)10:00セントラルパークで「北風のくれたテーブルかけ」を上演します



小さな子の登場シーンや振付は高校生のお姉さんがサポートします



ハンス役の島岡蒼弥君(写真左)「ハンスは勇気があって心のやさしい少年。「ステッキよ横になれ!」というセリフが気に入ってます」



「人形の目線、大事だよ」と、お母さん役の山田紗紀さん(鼎小4年)を指導する増田幸江先生

り、今では発表会のメインになっています」と同教室の増田幸江先生。歌やダンス、生演奏で練り上げられるステージはまさに「人形劇オベラ」です。
今年の作品「北風のくれたテーブルかけ」には約50人が出演。主役のハンスを演じる島岡蒼弥君(竜丘小4年)は「みんなと力をあわせていい人形劇にしたい」と、休憩時間も人形を放すことなく練習します。
いい人形劇フェスタでの公演が評判を呼び、今年8月1日のオープニングセレモニーに出演が決定。フェスタの幕開けを「天使のたまご」たちが盛り上げます。

劇人協会通信

映像と人形・人形劇その6

日本人形劇人協会
友松 正人

日本人形劇人協会
舞台や映像番組で活躍している実演家と人形劇に係わる仕事を職業とする専門人形劇人の組織。人形劇人相互の親睦交流、活動条件の改善と社会的芸術的地位の向上をはかることを目的に1967年に設立されました。

「プリンプリン物語」再放送

ご承知のように連続人形劇「プリンプリン物語」の再放送が始まりました。「視聴者として楽しんでおります。それをお知らせする特別番組が6月28日に放送され、日本人形劇人協会の前理事長の大江健司さん、高橋弘一さんが出演、操演姿も披露しました(見せない前提ですが時折お目にかけてしまします...)。

高橋さんはスタジオで「もう一度プリンプリンを見た団」の皆さん30名とお話をして、その頃の記憶が相当に鮮烈であることに感銘を受けたそうです。

主人公がアイデンティティを求めて旅をするストーリー、個性的なキャラクターと声優さんたちの台詞、デフォルメのきいた人形のデザイン、たくさんの

魅力が重なっています。けれどもそこに「人形の動き」が加わったから、ドラマへの感情移入がよくなされたのではないかと強調させていただきます。

映像の人形劇の多くの現場では、音源が先に完成して、その録音に合わせて人形操演します。ところが人形の動きによって録音された音源が全く違う聞こえ方をすることがあるのです。そんな先輩たちの演技を何度も目撃しました。自分も映像を見る方に、動きで気持ちを届けることを目指して取り組んでいます。

再放送を機会に連続人形劇の新作が作られ、人形劇の魅力が共有できる機会が増えることを願ってやみません。



©友永詔三

1979~1980年にNHKで放送された人形劇「プリンプリン物語」7月5日からBSフレッシュアムにて毎週水曜23:00~23:30再放送